



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1929, 11(3): 235-239

ISSUE DATE:

1929-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183566>

RIGHT:

Jan.

Mapping the Home of the Great Brown Bear.

(Thomas A. Jassar)

○東洋學藝雜誌 第四五卷 第二號 二月

火成岩の話(二) (坪井誠太郎)

ライプツヒ及びハルレ兩大學の地理學教室 (西田與四郎、今村學郎)

○臺灣時報 第一一〇號 一月

臺灣の地理學的區分(一) (移日妙光)

○史蹟名勝天然紀念物 第四集 第二號 二月

天然紀念物としての地質鐵物の保存に就て(佐藤傳藏)

○都市地理研究(人文地理學報第一輯)人文地理學會編 二月

刀江書院發賣 一圓五〇錢

風景形態としての都市 (小田内通敏)

都市的人口集團の地域的實在 (小田内通敏)

濱松市の都市地理學的考察 (佐々木清治)

中世末期の關東に於ける都市の發生過程 (島羽正雄)

近世大阪が有する聚落類型の探求 (佐古慶三)

米の集散と都市 (川口丈夫)

大都市の地盤と都市計畫 (江畑弘毅)

○歴史地理 第五三卷 第二號 二月

地形變動と史蹟 (今村明恒)

○北海道石炭鑛業會々報 第一七三號 一月  
方位の話 (山崎守作)

雜 報

## 雜 報

### ○滿洲に於ける支那移民定着の増加

滿洲に於ける山東直隸苦力及其家族の移住に就ては最近各方面の注意を喚起する様になつた。今過去五箇年半に於ける滿洲支那移民の定着力の消長如何を表示すると次の如くである。

年次	移 動	入滿者數	離滿者數	差引定着	定着率%
大正十二年度		三〇一、六六八	二四〇、五五五	一〇一、七三三	二九・六
大正十三年度		三五四、七〇〇	二〇〇、〇四六	一五四、六五四	四八・〇
大正十四年度		四七三、六八六	二七〇、七六六	二〇二、三三三	四七・七
大正十五年度		五八六、七五五	三三三、六九四	二五三、〇六一	四三・八
昭和二年度		一、〇三二、九四三	三五四、五九九	七七八、四四三	六六・五
昭和三年度		五七四、〇八八	一五七、〇九八	四一六、八九〇	七二・六
上 半 期		三、五四一、一〇一	一、五〇〇、七五九	一、八六〇、三三三	五五・六
合 計					

右表の如く年々入滿數が増加し、昭和二年度に至り前年度に比し八〇%の大激増を示した。之等入滿者は大連、營口、安東及奉天を經由するが大連經由の入滿者が過半數を占めて居る。而して過去五箇年半に支那移民の滿洲渡來數は約三百四十萬人一箇年平均移住數は約六十萬人で、其旺盛な移住力

には驚かされる移民離滿數に就て見るに大正十五年度の増加は可成り大であつたが、翌昭和二年度の夫は非常な減少で、同年度の入滿數激增の傾向と對比すれば、移住定着率が如何に大きくなつたかを窺ひ知られる。即ち定着率は速かに約四三%から七六%に登つた。かくして過去五箇年半に約百八十八萬人の移民が滿洲に定着したのである。即ち一年平均約三十九萬人に當つて居る。又五箇年半の平均定着率は五五%三九で總入滿者の過半數が滿洲に安住の地を求め得たものと見るより外ない。(滿鐵調査時報第八卷第十二號に據る)

### ○千九百二十八年支那對外貿易

貿易は輸入十二億四千萬海關兩、輸出九億三千萬兩の概算にして其内譯左の如し

	輸 入		輸 出	
	金額	増減	金額	増減
上海	六,000,000,000	四割増	三,500,000,000	五分増
漢口	六,000,000,000	三十一割	一,500,000,000	四割増
大連	二,000,000,000	一割一分	一,500,000,000	七分増
天津	二,000,000,000	一割三分	八,000,000,000	一分減
青島	三,000,000,000	五分減	三,000,000,000	八分減

次に今年支那へ賣込の綿製品は英國品九千九百萬圓に對し日本品二億一千九百萬圓、英國は昨年よりも二割五分増し、日本は二割二分の増加なり。時局其他の障礙ありたるに不拘二十億突破の勢をしめし、日本品も排貨の難局に處し乍ら大體に於て順調に發展しつつあるものと如し。

### ○樟腦新原料

(Ocimum Canum) 樟腦は近年其需要が

増し、セルロイド工業はその五〇%を消費する勢を示めし、その産額に到底之に應ずる能はざるの勢であるが、その産出の木材が本邦并に台灣の特産であつて、支那や安南や馬來やアフリカに移植してもうまく成功しない。全世界の樟腦産額の五分四は全く本邦の獨占である時に際し、佛國の農業研究會員 Charbot 氏は Ocimum Canum 樹を實驗に供して、揮腦を製造したるが、この樹は英領ケニアに繁生する植物にして黃色にして稍粘氣あり、香氣を有する揮發油を含む、その分布區域はギネア、カメルーン、ケープヴェルデ諸島、エチオピア、ソマリランド、アンゴラ、モザンビーク、タンガニイカ等アフリカ熱帶林に共通して生育す、蒸溜用葉附小枝の收穫は年二回又は三回に達す。印度洋沿岸、佛國植民地に移植の可能性ありといへば、この木の將來は日本樟腦及人造樟腦に對して一大勁敵ならんか。

### ○濠洲の羊毛

一七七〇年キャブテン、クックが発見し

てから十有餘年の後メリノ種の羊を英國より移植してから終に今日の盛大な産業になつた。氣候風土とも牧羊に適し羊肉の輸出と共に愈々發達したので、今日では羊毛の産額は年々二百萬俵(一俵を三百五十封度)より貳百八十萬俵(九億八千萬封度)に達し世界羊毛産額の二割六分強を占めてゐる、濠洲の羊毛工業は盛でないから、國內消費は全産額の六分乃至七分位に過ぎない。其剩餘は海外に輸出せられつゝある、ニュージーランド州の全量の約半數をしめ、次でグインス

ランド州、南滿洲、西滿洲及タスマニアの順序で、メリノ種及其の雜種に二大別する、メリノは八割三分の多きに上り、雜種一割七分である。本年は旱魃の被害もあり減收を見越してゐたのに、各農市での取引が二百五十萬俵にも上つたので前者の實收に越へた。これは旱魃のため群羊を草地に移動させたため、曠原追驅中に、土砂が毛中に混入した結果であつた事實は減收であつたから思はぬ失敗を招いた商人が出来た。英國は脂付羊毛の全量の三分一を引取り、佛國は四分一その他は獨、日、白の順序である。洗上げ羊毛の半數は英國へゆき佛、白、獨、日の順に輸出する。トップは殆ど全部が日本へ向けられる。現今對日貿易も段々好發達に向ひ、本年は一千五百萬磅にも達した、これは日本の羊毛買付の増加したためで、羊毛の外に小麥、鉛、亞鉛、牛脂を輸出し、日本からは絹布、綿布、檜材、磁陶器を輸入する。貿易額からみれば全額の五分一厘に當るにすぎないけれども、英、米、佛について第四位に位してゐる。

### ○滿蒙の毛皮

滿蒙の毛皮各種毎年三百五十四萬匹にして收益大豆に譲らず、狩獵業者三十餘萬を算す、海拉爾驛に洗毛廠あり附近各地の產出物を洗滌して輸出す、英米各國人は海拉爾、桑貝子其他に收買所を設け郵便小包にて輸出す年額二十萬元に上る。その種類價格左の如し

一、陸の獺 西蒙、黑龍江、ザバイカル。捕獲數年一萬頭一枚六元乃至八元

- 二、栗鼠 後貝加爾、蒙古、年獲三十餘萬頭、二元八角乃至三元四角
- 三、貂鼠 產地同前年產八萬頭
- 四、鼬 後貝加爾、黑龍江。江省產一枚七元、バイカル產六元、滿洲里產三元五角
- 五、ラスカ 年產三十餘萬頭、滿洲里產一枚六元五角後バイカル產六元
- 六、鹿 洮南に産す一枚五元、年一萬餘頭
- 七、木鼠 內蒙、後貝加爾、年三十餘萬頭
- 八、草狐 內蒙、滿洲里、年產十餘萬頭、一枚六元乃至二十五元
- 九、狐 內蒙及三姓、暗紅色、一枚五十元、蒙古產は一枚十數元、年產一萬頭
- 一〇、水の獺 三姓、烏蘇里江、一枚五十元、乃至百元年產僅かに千頭
- 一一、貉 松花江下流、烏蘇里江、年三千餘頭一枚四十元乃至六十元
- 一二、狼、蒙古 年產一萬頭一枚四十元
- 一三、スリンクス 蒙古、後貝加爾、黑龍江沿岸、年產五千頭一枚百元
- 一四、貂 三姓、松花江下流、年五千頭一枚廿元乃至五十元
- 一五、山鼠 黑龍江、後貝加爾、蒙古、一年二萬頭、一枚三元乃至五元
- 一六、黑貂 チ、ハル、バルコ、年產二百餘頭、江省產一枚二百元、乃至五百元、巴爾虎產一枚八百元、乃

至一千二百元

一七、熊 吉、黑兩省及シベリア、年産三千餘頭一枚二十

元乃至三十元

一八、白熊 シベリア、年産三百餘頭一枚千元乃至二千元

一九、白狐、黑狐 蒙古、大烏里、烏金子、年四五十頭一枚

二千元

二〇、山猫 蒙古特産、年二百萬頭、一枚五元見當

以上合計三百五十餘萬頭。仕向さきは米國百五十萬枚、英國七八十萬枚、獨佛日露等計三、四十萬枚本年一月より九月まで、海拉爾洗毛廠にて洗滌した數百三十餘萬枚に達せり。

## ○外蒙古の近況

外蒙共和國の人口は六七六、〇三六人にして内蒙古人五十七萬九千、支那人七萬、露人九千に上る都市居住人口は全數の百分の二十一にして支那人及露國人多數を占め、蒙人はその一割に過ぎず、自餘は依然遊牧の狀にあり。家畜を以て其財産の基礎とす目下の家畜數左の如し。

馬匹 三三九、八二九頭 牛 五二二、四一四

駱駝 二七四、九八一 羊 一〇、六四九、一九七

計 一一、七七六、四二一

上記は一般外蒙人民の所有にかゝるものにして其他喇嘛階級の所有多しと雖も彼等は課税を恐れて其實數を計上せず。しかれども家畜が唯一の産業なれば、家畜衛生局の如き政府各部中最も重要な位置を占めたり。政府は一九二四年始めて豫算法を制定したるが、歳入の大宗は關稅にして從價稅法によ

る。近來保護貿易條例を宣布し外國品に重税を課す。家畜及茶を以て貿易の媒介品とす、一九二五年蒙古商工銀行（資本金五百萬留）を庫倫に創設し貨幣を發行す、從來流通中の支那中國銀行發行の貨幣は依然住民の信用を高めつゝあれども最近露國貨幣之に代るに至れり。外蒙政府所在地たる庫倫には中央消費組合本部あり、其經營下に皮革、製茶、製藥、製蠟等の諸工場あり、國營屠殺場、印刷工場、電燈公司の設けあり露人經營の羊皮加工、製靴、金細工工場あり、支那人經營のもの三百餘の工場あり。

一九二七年の外蒙貿易は四千八百萬留に達す。ソヴェート勢力の侵蒙後、政府は對露貿易を獎勵し、對支貿易を制限しつゝあり。故に支商は三三五五、外蒙を捨て、内蒙及東三省に歸來するものに多を加ふるに至れりといふ。

## ○サラワク王國と在留邦人

ボルネオ島の西北部赤道

熱帶圈下に位し氣溫高く年平均約廿五度、雨量年平均二千粒以上に達する地で東及南は高峻な山岳聳立し熱帶多雨なる爲め所謂原始密林に蔽はれ東部の蘭領ボルネオ境の「マダ」山脈及び南部の「Mada」山脈中には三千米内外に及ぶ高峰が連り、西北部の南支那海沿岸に向けて急斜し Rejang, Baram-Lah、日河等の稍長流もあるが蘭領ボルネオに比し地勢高峻で河川平野が少い。

地質は山地は古期の水成岩から成るが平地の方は三紀又は洪積、沖積の新層である。ボルネオの天産石油は多くこの三

紀層中に含有されてゐる。

高温、多濕であるからこの方面の發展は十分可能性があるが現在十分な手が届かないのである。従つて未だ大量生産農産物は少いが就中最も重要な産物はサゴ、米、胡椒、ゴム、コブラ、カツチ等の農産物、石油、燕巢等である。

護謨栽培 南洋馬來半島等と共に重要な護謨栽培地で邦人の之に従事するものが非常に多い。千九百廿四年に於ける貿易中護謨は輸出中第一位を占め總てを合せて約九百三十萬弗に及んでゐる。

サゴ サゴは本地方の特産物で各地至る所に栽培せられるが其の精製は首府クチン(サラク)で行はれ製品は新嘉坡に輸出する。而して其の栽培は多く馬來人であるが其の製粉並に貿易は一切支那人の活動舞臺である。千九百廿四年の貿易金高は約二百萬弗である。

其他農産品に屬するもので重要輸出高を示すと胡椒(七十萬弗)である。胡椒も亦本地方の特産物の一つで白胡椒と黒胡椒の二種類がある。十數年前迄は本地方の重要生産品であつたが護謨栽培に壓倒され一方害虫の損害甚大で今は昔の面影を残すに過ぎない。尚カツチ(六十一萬弗)コブラ(十四萬弗)檳榔子實、藤、等が重要貿易品である。

鐵産物は 石油が第一で同じく一千九百二十四年度の貿易狀況はベンザン(一千百萬弗)燈油(六百三十萬弗)原油(百八十八萬弗)總計二千萬弗に及び總ての貿易品の首位に在る。其

他油類に液體燃料(四百五十萬弗)等を舉ぐべきである。

其他本地方有名な特産品たる燕巢は、支那人の最も珍重する食料品で海岸の險崖に巢作つた海草類の巢で、採取して支那に賣出される。輸出年額約十二三萬弗に及ぶ。

サラクに於ける邦人

前述の通り本地方に於ける邦人は主として護謨栽培で千九百二十八年一月に於ける邦人の護謨栽培面積は、租借面積七千三百八十五エーカー、開墾植付面積四千四百八十三エーカー、目下の生産面積は二千六百九エーカーに及び主としてサラク市附近に多く住し在留邦人の數は男五十二名、女三十八名子供二十五名合計百十五名で其の七割は護謨栽培に従事してゐる此等の多くは資本植栽でなくて殆ど總てが自己努力の結果から生じた裸一貫式の移民で基礎の不安定と支那人の活動侵蝕は邦人移民の活動力を限定してゐる。故に今後同地に於ける邦人の發展はどうしても或程度の資本移民でなければならぬ。(KY生)

## 質疑應答

問 ホンゲイ無煙炭 京都 山名生

答 ホンゲイとは鴻基といふ地名の支那讀である。東京灣岸海防の東北にある、炭田地である、この無煙炭の質は東洋第一と稱せられ、一九二七年初頭に於て一比弗方騰貴し塊炭小及塊炭大の賣價は夫々十一比弗及十二比弗となれり、一